

#### 第49回 知的財産問題研究部会（IP部会）

テーマ “アイデアの発明化”

～中小企業向けアイデア発想法、利益と元気を生み出すためのとっておきの話～

日時 2014年11月7日（金） 13：30～16：30

場所 アクトシティ浜松

研修交流センター51会議室

講師 株式会社アイデア 代表取締役 前古護 氏

今回のIP部会は、いつもと少し趣の異なるものでした。テーマにあるように、製品開発の際に、どのようにしたら数多くのアイデアを出すことができ、また、その中から最もよいアイデアを抽出できるかというようなお話を、実例を交えて聞くことができました。

講師の前古氏は、株式会社デンソーで開発の業務に携われたのち、独立され、現在はTRIZを使って「企業の開発力を高めるにはどうしたらいいか。」といったテーマに対するコンサルタントを主な仕事とされています。

TRIZは、ソ連時代に特許の審査官であった、アルトシューラー氏が特許に書かれている解決手段は、限られており、複数のグループにカテゴリー分けできると考え数十万件の特許を解析することによりそれを体系化し、さらに、その後米国でさらに多くの特許が解析され発展していったものです。近年、コンピューターを利用することにより、より使いやすいものとなっています。1997年ころ日本に紹介され、一時ブームとなりましたが、どうもうまく使いこなせないということでそのブームも去ってしまいました。その後TRIZの使い方が見直され、多くの大企業で導入が進み、技術開発の場で活用されるようになってきて、非常な成果が出ているとのことでした。また、TRIZを導入して有効に活用できている中小企業でも画期的な製品が次々と生まれ、会社の発展に大きく貢献しているとのことでした。お話の中で、具体的にTRIZの考え方をご紹介いただいたり、アイデアの出し方を示されたり、一部TRIZの使い方までご紹介いただきました。

TRIZというような有用な道具を使っている企業に、それを使わない企業が勝てるわけがないという説明と共に、あの韓国のサムソンでも大々的に導入されており、それが競争力の一旦を担っていて、さらにTRIZを使いこなせる技術者を募集しており、高待遇での採用がなされているという話に驚かされました。

知財担当セクションが主となって導入する場合には、どのように進めればより大きな成果が出るのかはつきりとは理解できませんでしたが、うまく活用できればかなり大きな成果を出すことができるのではないかと感じました。少なくとも、開発の場に導入する際は、導入することにより成果を出すことができるということを開発に携わる人々が納得して取り組む必要があり、それを会社の中でどのように作り出していくかが重要のようです。実際に導入する際には、このあたりのことを教えてもらえるのではないかと思います。

非常に興味深く聞くことができ、TRIZについて、少し勉強してみようと感じました。

以上

(IP部会委員代表)